【果樹】の【台風】対策について
＜１０月＞

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【果樹共通】

（１）予想される被害状況

園内滞水に伴う根系の枯死及び樹勢低下。
強風による枝の折損及び落葉、落果。

（２）事前対策

① ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
② 防風ネットの点検を行う。
③ 枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で８の字型に縛っておく。

（３）事後対策

① 結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
② 幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
③ 枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
④ 枝が裂けたものは、軽傷であれば縄などでしっかり絞って固定し、回復を図るが、激しい場合は切り取って切り口に塗布剤を塗る。
⑤ 落葉のひどいものには、日焼けを防止するために、石灰乳を塗布する。

【施設果樹共通】

① 施設栽培における対策については、【野菜】の台風・強風・大雨対策〈通年〉の【施設野菜全般】を参考にする。

【かんきつ類全般】

収穫期である温州みかんの被害を最小限にとどめるように尽力する。
被覆前の施設日向夏などについては､かんきつ類全般に準じた管理を行う。

（１）予想される被害状況

風傷に伴う果実や葉のかいよう病発生。
マルチ資材の破損。
黒点病の増加、褐色腐敗病の発生。
落葉及び落果。
塩害による樹勢低下（沿海地帯）。
カメムシの大量飛来。

（２）事前対策

① 襲来前に銅水和剤の散布を行う。
② 温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

（３）事後対策

① 襲来前の殺菌剤の散布を実施していないところでは、銅水和剤の散布を行う。
② 前回の黒点病防除から２５０ｍｍ以上の降雨があった場合は、収穫前日数に注意しながらマンゼブ水和剤等の殺菌剤の散布を行う。
③ 温州みかんなど、褐色腐敗病の発生が懸念される品種では、防除を実施する。薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に留意する。

④　塩害が懸念される場合は、６時間以内に２～３トン/10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。
⑤　カメムシの飛来が見られる場合は、収穫前日数に注意しながら薬剤散布を行う。

【完熟きんかん】

基本的な対策については、かんきつ類全般に準じて実施する。

（１）予想される被害状況

果実の傷の増加。

（２）事前対策

①　防風ネットを設置し風を弱めるようにする。
②　後期加温を計画しているハウスでは、サイドビニルを設置して巻き上げ固定しておく等、被覆の準備を進め、通過直後にすぐに被覆、加温開始ができるようにしておく。

【マンゴー　ビニル除去園】

（１）予想される被害状況

強風による新梢の折損及び折損部からの炭そ病発生。
風傷に伴う葉のかいよう病発生。

（２）事前対策

①　襲来前に銅水和剤の散布を行う。
②　防風対策として、ネットや寒冷紗等の展張を行う。

（３）事後対策

①　新梢が折損した場合、発生部から除去し、炭そ病に効果のある殺菌剤を散布する。

【なし、かき、くりなど】

収穫期であるくり、晩生なし、かきの被害を最小限にとどめるように尽力する。

（１）予想される被害状況

落果及び落葉。
葉や枝に発生する各種の病害。

（２）事前対策

①　棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。
②　側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。
③　特になしは、棚線への枝の結付けをよくして、落果防止を図る。

（３）事後対策

①　病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。収穫が近い場合は、収穫前日数に注意する。
②　主枝・亜主枝等の太枝が裂けたものでも、毬果・果実の成熟まで枯死しないと見込める枝は、傷口にゆ合剤を塗布してひもなどで固定し、収穫後切り離す。主幹部が折れたものは、萌芽した中の２～３本を育成する。台木から萌芽した場合は春の切接ぎの準備を行う。